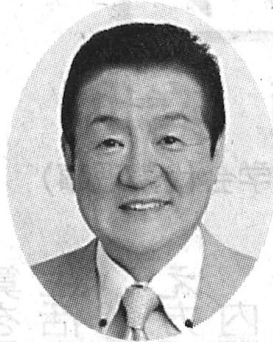


# 茨城にもっと笑顔と力を

参議院議員 藤田 幸久



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

東日本大震災から3月で丸2年を迎えます。ふるさと茨城を復興から再生し、もっと笑顔と力がみなぎる年にしたいと思います。

財務副大臣として、私は2度の補正予算と2012年度予算を編成しました。茨城県に対する2年間の震災関連予算は、被災市町村に対する復興交付金、震災や円高に直撃された企業に対する立地補助金、原子力災害周辺地域産業復興立地補助金、地域グリーンニューディール基金、中小企業グループ補助金、水戸市・高萩市・城里町の全額国費負担を含む庁舎再建予算、市街地液状化対策、赤水被害対策などが大

きな柱です。

特に、「茨城産業再生特区」への新規投資は被災5県で最大となったほか、風評被害対策の補償金を全国から先駆けて東京電力から獲得するなど、東北と比べても「被災県茨城」の復興が加速化しました。

また、圏央道の建設加速化、新鹿行大橋の早期完成、鹿島港や茨城港の「国際バルク戦略港湾」指定、東関東道水戸線(鉾田～潮来)の加速化など長期的課題の対応も推進しました。

昨年5月の竜巻被害の直後には、つくば市、筑西市、常陸大宮市などに入り、瓦礫処理費用の9割を国が負担することを即断した他、国家公務員宿舎を被災者に提供させて頂きました。

今後は、長期的視点から新しい茨城創りに取り組むまたとないチャンスです。

その象徴が「つくば国際戦略総合特区」です。つくばは、32の研究機関や8千人程の博士が存在する日本一の研究開発拠点にも拘らず、組織の縦割りと産業界との連携不足から、国際的な実績や新産業創出を充分果たせずにあります。この組織の壁を越え、地場産業を創出し、次世代がん治療、藻類バイオマスエネルギー、生活支援ロボット、ナノテク拠点形成など日本の成長戦略の柱とする構想で、産学官の連携で取り組んでいます。

茨城県は、メロン、白菜、鶏卵などの生産が全国一である一方、医師の数は人口比で全国46位、道路の改良率が全国最下位といったギャップがあります。これを埋め、大きな潜在力を引き出して新しい茨城創りにつなぐよう、引き続きお役に立って参りたいと思います。

皆様にとって良い一年でありますことを心からお祈りいたします。